

千葉演習林 ボランティア会

Abies 通信 (NO.8)

2006.4.20

もくじ

1. 3月度ボランティア活動の報告 演習林を歩こう
2. 平成18年度 会員および連絡方法の確認
3. 平成18年度 役員について
4. 5月度研修および活動の案内 造林研修会と標準地調査

3 月度ボランティア活動の報告 ～ 演習林を歩こう～

ボランティア 白石 房代

平成18年度から千葉演習林ボランティア会 Abies に入会致しました白石房代です。実質の活動は4月からですが、会の様子を事前を知るよい機会にもなるということで、3月11日～12日に行われる定期総会およびボランティア活動(演習林を歩こう)について誘いがあり参加しました。

3月11日の定期総会のあとに行われた山本林長の講演は、千葉演習林の沿革や林況について、色々な資料に基づいてのお話しでした。千葉演習林のある房総丘陵は標高こそ400m弱の高さですが、植物相は極めて豊かで自生種は木本類が約28



清澄寺大スギの前で集合写真

0種、草本類が約800種（内シダ植物160種）もあります。理由は冷温帯植物（ヒメコマツなど）の南限と暖温帯植物（ホルトノキなど）の北限が重複している地域のためだそうです。

また、近年は森林の維持・管理に費用がかかる上に、木材需要の低迷や維持要員の減少などで、森林の伐採に伴う多様な多様な構造をもつ森林づくりがむずかしくなるなど林業の状況や、シカの頭数増加による植栽苗木への食害、ヒメコマツなど貴重な植物の保護などのお話もありました。

翌12日は“演習林を歩こう”にも参加しました。参加者は七里川温泉に泊まった会員に当日朝から参加された会員を合わせて15名となりました。演習林からも山本林長、村川さん、根上さんが一緒です。

昨日ほど良く晴れてはいませんが、風もなくうす曇りでまあまあな天候となりました。

午前10時に千葉演習林清澄作業所に集合して、天津駅行のバスにのり、今日のコースの出発地点である本沢林道の入口の坂本付近で降りました。

今日の“演習林を歩こう”のコースは本沢林道を北上して桜ヶ尾新歩道にとりつき、一杯水林道にて清澄寺の横をってから千葉演習林の清澄作業所に戻るコースです。

コースと見所などの説明を受け、資料をもらって歩きだしました。本沢林道は演習林の南方に位置し、二夕間川（ふたまがわ）に添って北上する林道で演習林の一般公開のコースである猪ノ川林道が北側の代表的な林道だとすれば、この本沢林道は南側の代表的な林道といえます。



本沢林道のトンネル

前半の南側は広葉樹天然林（かつての薪炭林）が主で、後半の北側はスギの人工林が多

くなっています。特に前半は広葉常緑樹が多く、薄暗い感じでした。

ダムや稚児滝などを見て二夕間川の水音を気持ちよくききながら、色々な植物を観察して歩きました。千葉県北部では見ることのできないバクチノキ、タイミンタチバナ、バリバリノキなどの常緑広葉樹の高木や珍しいコショウノキ、ミヤマトベラなどを見ることができました。コショウノキはジンチョウゲの仲間の低木ですが、香りの良い白い花が一面に咲いていました。

間伐されて立派な高齢ヒノキ林を過ぎた桜ヶ尾新歩道の取り付き地点で、ちょうどお昼の時間になったのですが、小雨がぱらつきだして、道端にはヤマビルも出てきているので、



170年生の桜ヶ尾スギ高齡林

桜ヶ尾新歩道を登りきってから一杯水林道で昼食をすることにしました。(ちなみにヤマビルは1974年頃は南房総でもこの付近にしかいなかったそうです。)

桜ヶ尾新歩道は落ち葉がふかふかと積もった急な登りの歩道でかなり汗をかきました。ここ(桜ヶ尾43林班C₁₆小班、樹齡170年)は演習林のなかでも最高齡の立派なスギ林です。幸いに小雨も止んだので、風の

通る涼しい一杯水林道の広場で、七里川温泉で用意してくれた古代米(赤米)のおにぎりをおいしく食べました。

その後、そのまま一杯水林道を歩いても平凡なので、途中からシカ柵沿いの尾根道に入り、今回歩いた本沢林道の地域や天津小湊付近の展望を楽しみながら、清澄寺まで戻りました。清澄寺の大杉の前で全員の記念撮影をしてから千葉演習林清澄作業所にもどり解散となりました。

いっぱい感動をもらった今回の“演習林を歩こう”でしたが、途中何箇所かで害獣駆除で殺されたシカの死体をみました。人と動物の共存のむずかしさ、農業や林業の厳しい状況を私なりに考えさせられました。

今日は私の思い出に残る良い一日でしたが、次は何に会えるか今からまた楽しみです。演習林の皆様、ボランティア会の皆さんありがとうございました。

今回見かけた主な樹木

バクチノキ(ピラン、ピランジュ)

房総半島以西の暖地に生えるバラ科の常緑の高木。樹皮が鱗片状になって脱落し、その後の幹の肌が紅赤色になる。葉から薬用のバクチ水(杏仁水)がとれる。

タイミンタチバナ(ヒチノキ、ソゲキ)

中部以南の暖地の林中に生えるヤブコウジ科の常緑の小高木、大きいものは高さ約7m、直径25cmにも達する。大明橘の意味で大明は中国の明国、橘はミカンでなくヤブコウジ科のカラタチバナのこと。

カゴノキ (コガノキ、カゴカシ、カノコガ)

暖地に生えるクスノキ科の常緑高木で高さは5 ~ 13 mである。幹は平滑で淡紫黒色をしているが、転々と脱落し、そのあとが白くてに鹿の子模様となる。名前は鹿の子の木から由来する。



バリバリノキ (アオガキ、アオカゴノキ)

暖地の山地に生えるクスノキ科の常緑高木、高さは5 ~ 13 m。葉はカシの木に似るが、長さが20 cm内外と長い。硬質の葉が触れ合う時の音が名前のいわれである。バリバリと音をたてて燃えるからとの説もある。

コショウノキ

南関東から西の山地の樹下に生えるジンチョウゲ科の雌雄異株の常緑低木で高さは1 m内外、春早く枝先の葉芯に香りの良い白い花がかたまって頭状に付く。赤い果実が胡椒のように辛いので名づけられた。



オニシバリ (ナツボウズ)

山地に生える有毒で毛のないジンチョウゲ科の落葉低木。雌雄異株で高さは1 m内外、茎は丈夫で容易に切れない。早春に黄緑色の花が葉脈に集まって咲く。葉は秋に伸びて冬を越すが夏には落葉する。樹皮が強く鬼も縛れるから鬼縛り、夏坊主は夏に落葉するから。



ミヤマトベラ

南関東以西の暖かい地方の深山の林中にはえるマメ科の常緑性の小低木。高さは30 ~ 60 cm位、初夏の頃に白色の蝶形花を多数つける。豆果は広楕円形でやや肉質、黒紫色に熟し中に1個の種子がある。深山にはえるトベラという意味で葉の形状がトベラの葉に色と光沢が似ているからである。



*5月20日 9:00~16:00頃まで 標準地調査

人 数 19日 定員なし 20日 定員9名(原則として先着順)

宿泊場所 清澄学生宿舎(04-7094-1990)

参加費 19日 研修会のみ - 無料、 懇親会まで - 1,000円(予定)
宿泊(懇親会・朝食・昼食・弁当有) - 2,340円(予定)
20日のみ - 無料(昼食・飲み物を持参してください。)

持ち物 (19日)筆記用具
(20日)野外活動ができる服装、靴(登山靴などしっかりしたものや地下足袋)、滑り止めつき軍手、タオル、雨具、リュック、敷物、保険証のコピー、常備薬、会員証など

雨天時 状況により対応

受付期間 4月26日(水)~5月11日(木)

申込、お問い合わせ先

千葉演習林ボランティア会 Abies 事務局 石川 輝雄
(連絡先は活動要項をご覧ください)

=====

千葉演習林ボランティア会 Abies通信 No.8 2006/4/20 発行

*事務局 〒264-0032 千葉県千葉市若葉区みつわ台 3-1-2-102 石川輝雄

*東京大学千葉演習林 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770 TEL:04-7094-0621
FAX:04-7094-2321 E-Mail:chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp
<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/>